

2026年度 東北公益文科大学一般選抜(前期)問題

公 共

受験番号								氏名	
------	--	--	--	--	--	--	--	----	--

受験上の注意

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いたり裏返したりしてはいけません。
- ② 机の上に置いてよいものは、受験票、筆記用具（鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆キャップ、鉛筆削り）、眼鏡、ハンカチ、薬、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけ取り出したもの）、時計のみです。なお時計は計時機能だけのものに限りません。
- ③ 携帯電話およびスマートフォン等の電源は必ず切ってください。
- ④ 公共の問題は全部で5ページです。
- ⑤ 解答用紙は1枚です。
- ⑥ 受験番号と氏名は、問題冊子および解答用紙のそれぞれ所定の欄に必ず記入してください。
- ⑦ 問題の解答時間は70分です。
- ⑧ 問題冊子の余白は下書きに用いてもかまいません。
- ⑨ 解答用紙の余白および裏面には何も書いてはいけません。
- ⑩ 問題に疑問のある場合は黙って手を挙げてください。ただし、問題の内容に関する質問については受け付けない場合があります。
- ⑪ 試験中に気分が悪くなった時やトイレに行きたくなった時は、手を挙げて係員の指示に従ってください。
- ⑫ 印刷に不鮮明な箇所がある場合は、黙って手を挙げてください。
- ⑬ 解答用紙は汚れても新しいものとは交換しません。そのまま提出してください。
- ⑭ 解答終了の合図で、筆記用具を置いてください。
- ⑮ 係員が答案の回収を終えるまで、席を立たないでください。
- ⑯ 問題冊子は試験終了後持ち帰ってください。

第1問 次の文章を読み、下の問1～問3に答えなさい。

今日の国際社会は200近くの[1]の集まりで構成され、[1]は相互に平等で他国から独立し、干渉されないこととされている。しかし、これは同時に、たとえ自国の権利が侵害されても、保護してくれる[2]のような権威が存在せず、自国の安全は最終的には自力で守るしかないことも意味している。このような中で、歴史的には多くの戦争が起きた。そこで、国際社会の中で戦争を防ぐための様々な方法が考えられてきた。その第1の方法が(ア)勢力均衡である。20世紀初頭までは、国際社会を安定させるための方法として、主に勢力均衡がとられていた。この方法は、一定の安全保障上の役割を持ち得るが、各国が常に軍備増強に走る[3]を招き、結果として国際情勢が不安定化しやすいという欠点がある。勢力均衡の代表的事例として、第一次世界大戦直前にドイツ・イタリア・オーストリアの3カ国が結成した[4]とイギリス・フランス・ロシアが結成した[5]がある。だが、この方法は結局第一次世界大戦の発生を防ぐことができなかった。

そこで第一次世界大戦末期の1918年にウィルソン米大統領は、[6]を発表して新しい国際社会の平和と安定の維持のための方法を提唱した。この新たな国際安全保障の考え方は(a)という考え方に基づいた国際平和機構の成立を打ち出した。新たなこの(a)という考え方は、利害が異なる国も含めた多数の国が、条約等によって武力行使を禁止し、違反した国があれば集団で(b)をとることを合意しておくことで、法の支配によって国際平和を維持する方法である。つまり、違反をした国を、条約を結んだ全ての国々で制裁し、侵略国を孤立させて、侵略行為を防ぐというものである。国際連盟と国際連合はこの考え方によって組織された。

問1 文中の空欄[1]～[6]に当てはまる最も適切な語句を、次の中から選んで、その記号を記入しなさい。

- | | | |
|--------|--------|------------|
| ① 軍拡競争 | ② 三国同盟 | ③ 主権国家 |
| ④ 三国協商 | ⑤ 世界政府 | ⑥ 平和原則14カ条 |

問2 文中の空欄(a)と(b)に最も適切な語句を記入しなさい。

問3 下線部(ア)の語句を60字以内で具体的に説明しなさい。

第2問 次の文章を読み、下の問1～問3に答えなさい。

地方の政治は[1]によって直接選ばれた議員で構成される議会と首長を中心に運営される。議会は[2]であり、地方公共団体を運営するために[3]を制定したり、予算や地方税を定めたりすることが主な仕事である。首長は[4]であり、税の徴収や公共事業、福祉といった行政を担当する。議会と首長は抑制と均衡の関係にあり、議会は首長の[5]権を、首長は議会の[6]権を有している。また、[1]は議員・首長の解職（リコール）、条例の改廃・制定（イニシアティブ）、議会の解散を請求できる。[1]にこれらの（ a ）が認められていることは、国政との大きな違いである。

地方公共団体を運営し、住民に対して行政サービスを提供するには財源が必要となるが、ほとんどの地方公共団体では、地方税などの自主財源で財源を十分にまかなうことができず、財源の不足分は国からの（ b ）によって補われている。（ b ）は地方公共団体間の財政力格差を解消するという財政調整機能と、地方公共団体間の活動量を財政的な観点から保障するという財源保障機能の2つの機能を有している。

「地方自治の本旨」については、政治は地方公共団体が国や他の団体から独立して行うという（ c ）自治と、住民自身が議員や首長の選出をはじめ様々な形で地方公共団体の運営を行うという（ d ）自治からなる。（ア）「地方自治」は民主主義の学校であるといわれている。

問1 文中の空欄[1]～[6]に当てはまる最も適切な語句を、次の中から選んで、その記号を記入しなさい。

- ①政治家 ②政党 ③住民 ④司法機関 ⑤執行機関 ⑥議決機関 ⑦法律
⑧条約 ⑨条例 ⑩任命 ⑪解散 ⑫不信任決議

問2 文中の空欄（ a ）～（ d ）に最も適切な語句を記入しなさい。

問3 下線部（ア）について50字以内で説明しなさい。

第3問 次の文章を読み、下の**問1**および**問2**に答えなさい。

地球的問題の1つに、(a)がある。地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨などの大気汚染、(b)、海洋汚染、生物多様性の減少など、様々な問題がある。その代表的なものの1つが地球温暖化である。

大気中には、二酸化炭素(CO₂)やメタンなどの温室効果ガスが含まれており、その影響で地球表面上は平均14～15℃に保たれている。しかし、18世紀の産業革命以降、(c)の大量消費によって大気中に多くのCO₂が排出され、温室効果ガスの濃度が上昇した。人類がこれまで大量に排出してきたCO₂は、植物や海水が吸収できる量を大きく上回り、1980年ころから地球規模で気温が上昇しているといわれている。

地球温暖化は大気環境全体に影響し、大雨や干ばつ、寒波や熱波などといった(d)の原因になると考えられている。近年、日本でもその影響が日常的に見られる。2018年には関西に、2019年には関東、中部、東北地方に巨大台風が上陸し、土砂災害や河川の氾濫を引き起こし甚大な被害が発生した。台風が巨大化した原因は、日本近海での海水温の上昇にあると考えられている。同じような現象は、アメリカのハリケーンや、インドのサイクロンにも見られ、巨大暴風雨が多発している。さらに2017年の夏には熱波が襲来し、中東とアジア、北米で気温が50℃を突破し、熱中症による死者が多数出た。南半球でも2019年にはブラジルのアマゾンやオーストラリアで大規模な森林火災が発生した。その原因は気温上昇や熱波により植物が乾燥し、燃えやすくなったためと考えられている。このように気候変動による危機は世界中に偏在し、被害をもたらししており、もはや遠い国の出来事ではない。

このような世界規模の環境問題に取り組むため、1997年に地球温暖化防止京都会議が開かれ、温室効果ガス排出量の削減目標などを決めた京都議定書が採択された。(e)などのしくみが導入されたが、排出削減義務があるのは先進国のみで、排出量が多い中国やインドには義務がなかった。2015年、京都議定書にかわる対策としてパリ協定が採択された。中国、アメリカ、インドなども含め196の国・地域が参加し、21世紀後半に温室効果ガスの排出量実質ゼロをめざしている。しかし、排出削減目標未達成への罰則がないことなどパリ協定にも課題は多い。

CO₂を排出せず、コストも安いとされていた原子力発電は、自然再生エネルギーと並び地球温暖化対策に有効であると考えられ、2000年以降、原子力への依存度を上げる国は増えた。しかし、2011年3月に発生した(f)の深刻な事故は、原子力発電推進によるCO₂削減の流れを世界的に停滞させ、削減目標達成の難易度が一挙に高まることとなった。特に当事国である日本への影響は大きく、それまで約30%あった原子力発電は大幅に低下し、石炭火力発電の比率が近年、高まってきている。地球温暖化防止、脱原発、日本全国を網羅し停電のない電力供給と安い電気料金、いずれも重要なことだが、すべてを同時に達成することは難しい。

地球環境問題の本質は、「豊かで便利な生活」を追求するか、「豊かな自然」を取るかの(g)である。そのため、開発と環境保全のバランスを取った持続可能性をどのように模索していくか、私たち一人ひとりの未来にかかわる課題である。

問1 文中の空欄(a)～(g)に最も適切な語句を記入しなさい。

問2 温室効果がどのように発生するか、そのしくみを100字以内で説明しなさい。

第4問 次の文章を読み、問1～問5に答えなさい。

人はいかに生きるべきか。それは人類にとって非常に古く、そして常に新しい問いである。

古代ギリシャの哲学者[1]は、(ア) 人は人にとって最も肝心なことについて知らないという自覚を思索の出発点とし、対話を通して知を愛し求めること、ただ生きるのではなく「(a) 生きる」ことの重要性を説いた。[1]の弟子である[2]は、(イ) イデア論をとえ、人の追求すべき絶対的な真理は、現実をこえたイデアにあるとし、これを理想としたが、[2]の弟子であるアリストテレスは、「人間は(b) 的動物である」と述べ、人間は個人としてのみ存在するのではなく、他者との関係性の中で生きるとする現実主義の立場を主張した。

特に人のライフサイクルの中でも、青年期は今まで慣れ親しんできた家族などの小集団から、学校や職場といった多様な集団と関わる時期であり、生きる上で悩みや葛藤が生じやすい。しかし同時に、自分の人生を自らの手でとらえ直す時期でもある。フランスの思想家ルソーはこの時期を「(c) の誕生」と呼ぶ。また青年は自己の個性を主体的に形成していく過程の中で、その後の人生に向けての(ウ) 一貫した自己を確立する。それを心理学者エリクソンは「(d) の確立」と呼んだ。

エリクソンはまた、青年期は大人としての社会的義務や責任から猶予されている期間であるとして「心理・社会的(e)」と名付けているが、大人にも子どもにも属していないことから、心理的に不安定な状況に陥りやすい。こうした両集団のはざまに位置する青年たちを、心理学者レヴィンは「(f)」と名付けた。

人はやがて青年期を経て、社会とより強く関わりを持つようになる。その中で個々人の尊厳が守られる社会の実現には、他者という存在が大きく関連している。アメリカの心理学者[3]は、人間の欲求を5つの階層で表し、人間が最終的に求めるのは「(g) の欲求」(第5階層)であり、「生理的欲求」(第1階層)や「安全の欲求」(第2階層)などの基礎的(低次)な欲求から、より高次の欲求に分けて説明した。基礎的な欲求と最終的な(g)の段階の間には、所属と愛情、承認欲求など、他者との関係の中で満たされる欲求の階層があり、そこに人間の本質が表されているといえる。

他者との関係性や社会との関わりを重視する思想は、第二次世界大戦後の自由主義的な風潮の中で大きく発展した。フランスの実存主義哲学者[4]は、人は置かれた状況に対してどう関わるかを自由に選択できるのだから、その状況に対する責任を果たすべきだと社会参加(アンガジュマン)を主張した。また第二次世界大戦時、自らがユダヤ系であったため、ナチスによる迫害を受けたドイツ出身の思想家[5]は、個人を画一化する全体主義を厳しく批判し、複数の、他に代え難い個々人が、言論と行為によって認め合う空間を公共空間(公的領域)と呼んだ。またドイツの思想家[6]は、[5]の影響も受けつつ、権力や経済的な利害関係ではなく、対話を介したコミュニケーション的行為による合意形成によって、市民的公共性を目指すべきだとした。

問1 文中の空欄[1]～[6]に当てはまる最も適切な人名を、次の中から選んで、その記号を記入しなさい。

- | | | | |
|---------|----------|---------|--------|
| ① マズロー | ② フロイト | ③ ヘーゲル | ④ プラトン |
| ⑤ ベンサム | ⑥ ロールズ | ⑦ アーレント | ⑧ サルトル |
| ⑨ ソクラテス | ⑩ ハーバーマス | | |

問2 文中の空欄（ a ）～（ g ）に最も適切な語句を記入しなさい。

問3 文中の下線部（ア）は何と呼ばれているか、記入しなさい。

問4 文中の下線部（イ）に対するあこがれ・思慕は何と呼ばれているか、記入しなさい。

問5 文中の下線部（ウ）は20世紀中盤におけるエリクソンの主張であるが、現在こうした「一貫した自己の確立」は困難となっている。その理由を80字以内で説明しなさい。